

照明技術賞

劇映画部門	最優秀照明賞	鬼龍院花子の生涯(東映京都作品)	担当	増田悦章
劇映画部門	最優秀照明賞	誘拐報道(東映東京作品)	担当	山口利雄
C.F部門	最優秀照明賞	ナショナル電球 光のメニュー-90(キャップ作品)	担当	吉田一夫
V.T.R.部門	特別賞	君は海を見たか(フジテレビ作品)	担当	山田芳昭
協会賞	浅見良二(ハイライト)	飛田博文(東映)		



「鬼龍院花子の生涯」を担当して

増田悦章

大正から昭和にかけて、その時代を背景に「志士は生れても俠客は出ない」といわれる土佐を舞台に「男」を売る社会を豪放に生きる鬼龍院政五郎を主人公にして、彼の周りに生きる女たちを視点にして五社監督の演出はダイナミックに荒々しく活き活きとしたタッチで謳い上げます。

本作品の成功、不成功は静と動の変化をどううまく表わすかが重要なポイントになります。

森田カメラマン、西岡デザイナーと綿密な打合せを重ね、具体的な絵作りを構成していきます。照明の狙いとしては基本はリアルな配光で、セットをロケに錯覚させることに留意しました。東洋一といわれる京撮最大のステージいっぱいにも組まれた鬼龍院家のセットはこの映画の重要な部分を占めています。

この鬼龍院家の表には天井からホリゾントに至るまで、ビニールハウスに使うビニールを張り、その上にスカイライトを設置して、天空光に近い光質を得ることにしました。ホリゾントには幅50cm程のアルミホ

イルを雲状に吊り下げ、それにライトをあてて入道雲、夕焼雲、夜の雲、雨雲とそれぞれ工夫して表現しました。沈みかけの太陽が雲に反射したような夕焼けのシーンはそれが発光体になっているだけに質感が出せたと私なりに満足しております。そして屋内の撮影においては昼にしろ、夜にしろ光源を重視して少しでもライトを使ったことを感じさせないようにと考え、バウンズライトを多用しました。それも相当な光量を反射で取るために大きなライトを多く使い、そのために一つ一つモレを切ることに大変苦労しました。

素晴らしいセットの質感を大切に生かすために黒い材質の柱、欄間などに自然の艶を出すように努力しました。

過密スケジュールの中、連日連夜の強行撮影も優秀な助手さんの協力が大変な支えとなりました。

この度、思いがけなく当技術協会の最優秀をいただきましたことは、感謝にたえません。関係各位の御厚意に紙上をかりお礼を申し上げます。

自分自身は未だ未熟で作品が完成するたびに勉強不足を痛感しますが、この賞をいただいたことを励みに一層今後共、努力致しますのでよろしく御配慮下さいますようお願い致します。